



こどもの心は大人には見えません

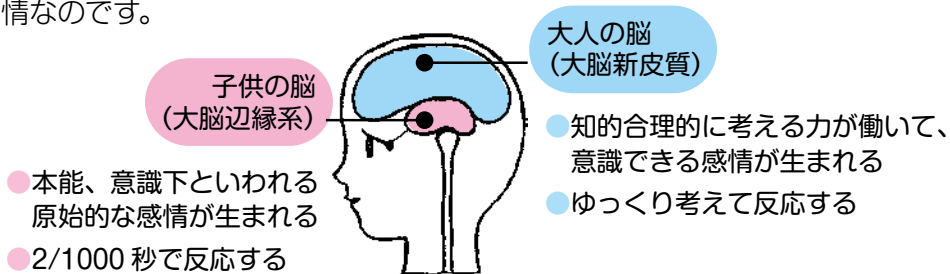
赤ちゃんには大人脳(大脳新皮質)がほとんどなく、子供脳(大脳辺縁系)で生きています。

Q お母さんは子供脳が感じていることがわかるのでしょうか

<p>a</p> <p>かなり わかっている</p>	<p>b</p> <p>少し わかっている</p>	<p>c</p> <p>まったく わかっていない</p>
---------------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------------

A 正解は C 子供脳のことは大人は見えないのです

ほとんどのお母さんは子供の心をわかっていると思っていますが、脳の機能が違うために実はわかっていません。子供脳(大脳辺縁系)は原始的な脳とも言われ、大人脳(大脳新皮質)からは意識できません。お母さんは子供が泣いたり、笑ったりする様子を見て、自分も同じ気持ちに感じているが、別の感情なのです。



赤ちゃんには大人脳がない

生まれたばかりの赤ちゃんには考えるための大脳新皮質がほとんどありません。感情が生まれる子供脳(大脳辺縁系)で、お母さんと交信しています。

子供脳は大人には見えない

子供脳で生まれている感情は、意識下、無意識、本能といい、大人脳からは意識できません。しかし、その子供脳は成長して大人になった時には思いがけない大切な力を発揮します。

子供脳が大人の行動を決定

子供の感じている感情は、実は大人にもあります。普段は大脳新皮質の動きの陰に隠れていますが、単純な好き嫌いを決めるのは、無意識のこの感情なのです。

絵本の絵は子供に届いていない

絵本の多くは子供のことを理解してつくられているようであっても、子供の心に届いていません。大人からは子供の心が見えないので無理ありません。子供の心と交信する絵本は結果的に出来上がったこととなります。

絵は子供脳の大切な栄養源

子供脳は視力を中心に働いています。絵は子供にとって感情力を養うための栄養源です。大人と違って子供が絵本に夢中になるのは単なる遊びではなく、脳の主食だからです。

